

スロヴェニア *Republic of Slovenia*

プレシエーレン *France Prešeren*

プレシエーレン～近代スロヴェニア語の父～



スロヴェニアの2ユーロ硬貨。プレシエーレンの肖像と、代表作『祝杯(Zdravljica)』の一節が記されている。
[出典: 欧州中央銀行]

広場の像には王侯・将軍が多い中で、スロヴェニアの首都リュブリャナに詩人プレシエーレンの像があるのは、スロヴェニアの穏やかな歴史の証であると思います。同じオーストリアの支配下にあったハンガリーやチェコと違い、スロヴェニア人の統一国家はなく、19世紀半ばまでスロヴェニア人の民族意識は曖昧でした。また、旧ユーゴからの独立戦争もたった10日で終わりました。そのため、ナポレオン戦争や両大戦を除いて大きな戦乱・蜂起はありませんでした。また、スロヴェニアの雄大な自然もその歴史と穏やかな「お国柄」を象徴していると思います。

フランツェ・プレシエーレンは、19世紀前半の詩人で、近代スロヴェニア語の父と呼ばれています。代表作『祝杯(Zdravljica)』の一節は、20世紀初頭にスタンコ・プレムルルが曲をつけ、1989年にスロヴェニアの国歌にもなっています。また、彼が亡くなった2月8日は、「プレシエーレンの日」として祝日となっています。

プレシエーレンとユリア ～リュブリャナの恋～

代表作の一つで、祖国のスロヴェニアへの愛を綴った『ソネットの花環(Sonetni venec)』の末尾に、各ソネットの第一行を並べてもう一つのソネットを作っていますが、その各行の頭文字は「PRIMICOVIJULJI(ユリア・プリミッツに捧ぐ)」と折句になっています。ユリアとはプレシエーレンの叶わぬ恋の相手で、首都リュブリャナのプレシエーレン広場にあるプレシエーレンの像は、ユリアのレリーフを向いています。

首都リュブリャナのプレシェーレン広場にあるプレシェーレンの像(写真右)と、その視線の先にあるユリアのレリーフ(写真左)。

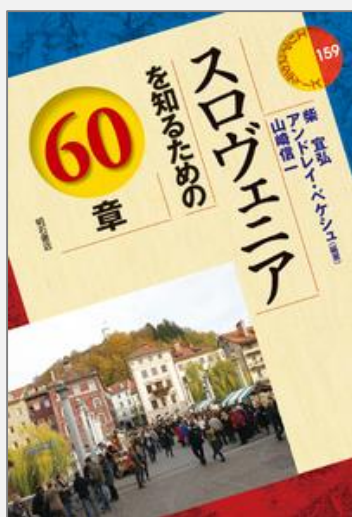
[著者撮影]



参考文献・画像出典

- ・ 柴宜弘, アンドレイ・ベケシュ, 山崎信一「スロヴェニアを知るための60章」(明石書店、2017年)
- ・ 欧州中央銀行: <https://www.ecb.europa.eu/euro/coins/html/sl.en.html>

オ ス ス メ の 一 冊



スロヴェニアを知るための60章
柴 宜弘, アンドレイ・ベケシュ,
山崎 信一編著 (明石書店, 2017年)

【請求記号】2390:54

スロヴェニアには、ポストイナ鍾乳洞・ブレッド湖・ボーヒン湖をはじめ、雄大な自然があります。また、石灰質の地形「カルスト」という名もスロヴェニアのカルスト地方からきています。この本で、皆さんにも馴染みのないスロヴェニアにより親近感が湧くでしょう。

執 筆 者 紹 介

松村 一慶 / 法学部5年

趣味: 世界史、西洋絵画、名探偵コナン
ミュンヘンで1年間留学

スロヴェニア・ブレッド湖の有名なお菓子、ブレイスカ・クレムナ・レジーナ

